

改憲発言繰り返す安倍首相

安倍晋三首相の改憲発言が止まりません。憲法順守義務を負う行政府の長である首相が、改憲をおおる発言を繰り返すということ自体が異常です。

安倍首相は1月1日の年頭所感で改憲に言及。6日の年頭記者会見でも「憲法改正を私自身の手で成し遂げていく」という考えにはまったく揺らぎはありません」と強調しました。同月27日の衆院予算委員会では、自民党の小野寺五典議員の質問に対して「自衛隊をしっかりと憲法に明記」とする9条への自衛隊明記をあからさまに主張しました。

原案策定狙ったが

安倍首相は昨年の臨時国会閉幕以来、たびたび改憲を「おおる」発言を繰り返しています。通常国会が始

異常な執念と強い焦り

臨時国会以後の安倍首相の改憲発言

2019年 12月9日	臨時国会 閉会後の記者会見	「来る通常国会の憲法審査会で、令和の時代にふさわしい憲法改正原案の策定を加速させたい」 「憲法改正は、必ずや、私自身の手で成し遂げたい」
20日	月刊誌 [Hanada] (2月号) インタビュー	「必ずや、私自身の手で（憲法改定を）成し遂げていく決意」
2020年 1月1日	年頭所感	「未来をしっかりと見据えながら、この国のかたちに関わる大きな改革を進めていく。その先にあるのが、憲法改正です」
6日	年頭記者会見	「憲法改正を私自身の手で成し遂げていくという考えにはまったく揺らぎはありません」 「令和の時代にふさわしい憲法改正原案の策定を加速させたい」
12日	NHK日曜討論 党首インタビュー	「私自身の手で憲法改正を成し遂げたい」
20日	通常国会 施政方針演説	「その案（改憲案）を示すのは、私たち国会議員の責任ではないでしょうか」 「憲法審査会で、ともに、その責任を果たしていこうではありませんか」
27日	衆予算委員会 答弁	「この（日本の防衛の）中核たる自衛隊をしっかりと憲法に明記し、その正当性を確定することこそ、まさにこれは安全保障、防衛の根幹」

まるまでの発言は、「必ずや」と自らが改憲を行うや自分の手で成し遂げた「執念」と、国会の憲法審

査会で改憲原案策定を進めるといふ三種分立を無視した国会への介入でした。

昨年秋の臨時国会の所信表明演説では、「憲法審査会を動かせ」と強調。自民

党改憲案の憲法審査会への提示を狙ったものでした。

「そもそも、[桜を見る会]私物化やカシノ汚職問題で「国民の知る権利」や、「国権の最高機関」である国会の権限を踏み越える安倍首相に改憲を語る資格はありません。

た。2018年の通常国会・臨時国会、19年の通常国会・臨時国会と、4国会連続で見送らざるをえなかったのです。

憲法語る資格ない

繰り返される改憲発言は、安倍首相の執念とともに、強い焦りの表れです。安倍首相は通常国会の施政方針演説（1月20日）で、改憲の議論を進めることを「国会議員の責任」と言い放ちました。

しかし、「国会議員の責任」を言うのであれば、憲法99条が国会議員が「この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ」というように、憲法の理念を実現するための努力をすることこそ国会議員の責任です。改憲が国会議員の責任だというのはま

発議阻止草の根で

自民党の小野寺議員の質問に「自衛隊をしっかりと憲法に明記し、その正当性を確定することこそ安全保障・防衛の根幹」と述べ、「それ（自衛隊明記の改憲）に向けて、しっかりと議論が進んでいくことを期待したい」と述べた安倍首相。憲法9条に自衛隊を明記し、海外で無制限の武力行使を可能にする改憲こそが狙いです。

（若林明）